

【議事要旨】平成 26 年度 南三陸町総合計画審議会（第 1 回）

日 時：平成 26 年 10 月 31 日（金） 13：30～

場 所：南三陸町役場大会議室

次 第

1. 開会
2. 挨拶（町長）
3. 委員委嘱・自己紹介
4. 会長・副会長の選出、挨拶
5. 説明
 - （1）復興計画見直し・次期総合計画策定の方針
 - （2）復興の進捗状況と住民意向
 - （3）まちづくりの着眼点と今後の課題
6. 議事
 - （1）総合計画審議会・作業部会の開催について
7. 閉会



■議事要旨

1. 開会

2. 挨拶（町長）

- ・震災から 3 年 7 ヶ月が経過をした。復興に向けて、一步ずつ着実に事業が進んでいる。
- ・防災集団移転促進事業については、昨年度までに完成した 6 団地に加え、今年度末までには 8 団地が完成する見込みとなっている。完成した団地では、住宅が建設され、新しい生活が始まっている方々もいる。
- ・災害公営住宅整備事業については、8 月完成の入谷復興公営住宅・名足復興公営住宅に加えて、来年 2 月までに歌津の柘沢地区で完成を予定しており、年度末までに 3 団地 104 戸が整備される。
- ・なりわいについても、町の基幹産業である水産業では、震災前を上回る水揚高になった。
- ・観光業についても、観光入込客数が震災前の 110 万人に対して、90 万人まで復活してきた。
- ・南三陸町総合計画は町の根幹となる計画で、これを基本として各計画を進めていくことにしている。
- ・総合計画審議会では、町の最上位計画である総合計画、震災復興計画の進捗を確認いただく会議であると考えている。
- ・現在の総合計画の計画期間は、平成 19 年度～平成 28 年度までの 10 年間の計画であるが、震災前に策定した計画であることから、東日本大震災を境にまったく異なる状況となっている。そのため、総合計画をより現状にあわせたものにするため、委員の皆様にご定に向けた審議をお願いする。
- ・町の将来を見据えた議論をいただき、復興に向けた、また、復興後のまちづくりに力を貸していただけるよう、心からお願いする。

3. 委員委嘱・自己紹介

- 委員 : 復興計画・総合計画は、町を左右する大きな計画である。この町の復興のために力を尽くしたい。様々な角度から議論したい。
- 委員 : 創造的復興という新しいまちづくりを全国に発信して、なりわいのまちづくりを農業分野からがんばっていききたい。
- 委員 : 商店街の復興に向けて検討している。本設にむけた説明会を開催し、とりまとめを行っている。その先が懸念されているため、相談しながら本設の開設にむけて進んでいきたい。
- 委員 : 町内各地域、各産業と連携し、観光資源を内外に発信していきたい。これから 発展期に入らる中で、観光協会の役割が重要となる。しっかり勤めていきたい。
- 委員 : 志津川地区まちづくり協議会の副会長を務めている。人にやさしいまちづくりの実現に向けて精一杯がんばりたい。スポーツ・文化分野からも発信していきたい。
- 委員 : 社会教育分野だけでなく、皆さんとともに、様々な分野ですばらしい町ができるよう努力していきたい。
- 委員 : 公民館連絡協議会という立場から、地域コミュニティの再構築に向けて、皆さんとともに考えていきたい。
- 委員 : コミュニティづくりが重要と考えている。皆さんと一緒にがんばっていききたい。
- 委員 : 合併協議会から関わってきた。復興計画の見直し・次期総合計画の策定にあたり、一から計画やまちづくりについて勉強していきたい。
- 委員 : 震災以前から総合計画審議会に参加してきた。復興の形が見えてきているが、かつての南三陸町のように住みよい町になるには長い時間がかかる。勉強しながらがんばって行きたい

事務局より、出席委員数は10名、委員の過半数に達している旨の報告があり、第1回南三陸町総合計画審議会が開催された。

4. 会長・副会長の選出、挨拶

町長の進行により、会長・副会長の選出を行った。

- 町長 : 自薦・他薦を問わないので、会長の推薦をお願いしたい。
- 委員 : 佐々木憲雄委員を推薦したい。

各委員からの異議はなく、会長に佐々木憲雄委員が選出された。

- 会長 : 大きな役割をいただいた。時間がかかると思うが、皆さんのご協力をいただきながら、他に誇れるようなまちづくりを推進していきたい。町は人口が減っており、大変な思いをしながら経営していかなければならない。皆さんと力強い意識を持ちながら、まちづくりを進めて行きたい。
- 町長 : 続いて、会長を補佐する副会長を選出していただく。副会長は、会長から推薦していただくこととしたいが、このことについて皆さんにお諮りする。

各委員からの異議はなく、会長が副会長を推薦することとなった。

会長 : ともに水産業の立場で努力してきた観光協会の及川委員を推薦したい。

各委員から了承され、副会長として及川委員が選出された。

副会長 : これからの発展期の重要な時期に関わらせていただくことになった。一生懸命勤めていきたい。

(ここから、会長が進行)

5. 説明

事務局より資料の説明、質疑応答を行った。

- (1) 復興計画見直し・次期総合計画策定の方針
- (2) 復興の進捗状況と住民意向
- (3) まちづくりの着眼点と今後の課題

(質疑応答・意見)

委員 : 南三陸にボランティアに来て、南三陸を気に入った人が組合の職員として来てくれた。来てよかった、と言ってくれているし、親御さんも喜んでくれている。来年度採用者など、南三陸に貢献したいという人がかなり多い。外部から若い人を呼び込む施策をみんなで検討する必要がある。子育てのしやすさも重要である。優良事例では、人口の5%くらいが外部から移り住んできた若者となっているようだ。

会長 : 改めて南三陸を見直し、ボランティアの方々が定住、結婚したというような、町の魅力をアピールしていく必要がある。

町長 : そういった方々が多くいらっしゃる。住む場所があればもっと人が来るといわれている。時間とともに、そういった熱意が薄れないよう取組んでいきたい。

6. 議事

事務局より、総合計画審議会・作業部会の開催について説明した。

- (1) 総合計画審議会・作業部会の開催について

※作業部会メンバー名簿配布

各委員からは特に質疑はなく、作業部会の開催について確認された。

事務局より、「南三陸町のこれからのまちづくり意向調査」の結果について、追加説明があった。

委員 : 回答に偏りがある可能性がある。詳細に分析してほしい。若い世代の意識がどうか、分析をお願いしたい。回答率については、高いか低いか判断しかねる。今後も意識調査は大切だと思う。これからのコミュニティの育て方についての考え方も、今後、機会をとらえて調査をお願いしたい。

副町長 : 若い方の意向なども分析していきたい。現在作業中なので、機会を捉えて、分析結果を説明していきたい。回収率については、統計学的には低くはないが、できればもっと大勢の方に意見を寄せてもらえるとありがたいと思う。現時点では、将来のことまで思いが至る状況ではないのかもしれない。コミュニティ形成に関しても、機会を捉えて検討していきたい。

委員 : 復興の進捗については「3」という回答が多く、まだ低いようだが、事業の進捗状況と住民の意識の差がある。住民にも分かりやすく、情報を発信していく必要がある。

以上で、第1回総合計画審議会の議事は終了した。

7. 閉会

事務局より、次回開催日時については、決まり次第連絡する旨、説明があった。

以上